

《校訓》学力・体力・情操・責任

校長 重盛 文人

2学期を振り返って

3つの学期で最も長い2学期が終わります。今日は終業式を行いました。コロナ禍のため体育館に一堂に集まるのではなく、放送で行いました。終業式では代表生徒による2学期を振り返り(どの発表もよく考えがまとめられ分かりやすい内容でした)のあと、私から生徒に向けて次のような話をしました。

- ・体育大会、修学旅行、合唱コンクールなどの行事を、協力することで充実したものにできたこと。
- ・新生徒会執行部もボランティア活動などで成果を上げたこと。
- ・学級や部活動、自分自身の反省を行い、3学期に生かしていくこと。
- ・冬休みの過ごし方(感染症予防、事件・事故に気をつける、家での手伝い、計画的な勉強)
- ・令和4年の夢や目標をもつこと。



いよいよ令和3年が終わりを迎えます。コロナ禍の中で東京オリンピックが開催されるなど、新型コロナウイルスに対して、人間の知恵や工夫、努力が試された1年であったように思います。財光寺中学校でも昨年度実施できなかった行事などを、知恵を出し合い工夫してなんとか実施することができました。そして、生徒の成長につなげることができたと思います。とても大変な1年でしたが、この経験がきっと役立つ時が来ると感じています。家庭でも今年の振り返りと来年の目標等について話題にしていただければと思います。

あきらめない心を持ち続けることの大切さ

新聞報道でもあったように、11月30日に日向市青年会議所主催で、ソフトボール日本代表の後藤希友(ごとう みゆ)選手の講演会をズーム配信で行いました。後藤選手は、東京オリンピックで投手として出場しました。メキシコ戦、カナダ戦、アメリカ戦の大切な場面で登板し、いずれの試合も勝利に導き、金メダル獲得の立役者となった選手です。私もオリンピックで日本がピンチの中、三振を次々と奪う後藤選手の姿を見て、メンタルの強さ、技術の高さなどに感動したことを覚えています。

講演会で私が印象に残った話の一部を紹介します。

- ・中学生の時、ソフトボールでオリンピックの金メダルを取ることを目標とした。
- ・試合中、ピンチの時は深呼吸をして心を落ち着かせる。ピンチではあるが「大丈夫」と自分に言い聞かせる。
- ・(小学生・中学生に向けて)ささいなことでもいいので、目標や夢を持ち、それに向けて取り組むことが大切。私は夢や目標を(他の人に伝わるよう)わざと口に出している。そうすることで、それに向けてがんばろうという気持ちになる。また、夢や目標を言うことで周りの人が応援してくれる。

後藤選手は、繰り返し夢や目標を持ち、それに向かってあきらめずにがんばることの大切さを語っていました。このことは今年、アメリカの大リーグで活躍した大谷選手も言っています。夢や目標を持ちあきらめず前向きに行動する、そんな令和4年でありたいと思います。

